

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	43	—	事業名	高齢者優待事業	担当部課	福祉部長寿課
------	----	---	-----	---------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	2	老人福祉費
		政策分類	3	地域にある施設の活用を推進する	大事業	5	高齢者優待事業
	その他（関係法令、要綱等）	長久手市高齢者文化施設優待事業実施要綱、あったかあど交付要綱、長久手市高齢者外出促進事業実施要綱					
事業開始の背景、経緯等	市内の施設や交通機関の利用を優待補助し、高齢者の外出を促すことで社会的視野を広めるとともに生きがいを得られるよう事業を開始した。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 高齢者に対し、福祉の家や市内の文化施設、公共交通機関の利用を助成する。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出機会を増やし、社会参加を促すことで地域内交流を活性化させる。					
	事業を構成する事務事業	① 高齢者文化施設優待事業	拡充	④			
	② あったかあど事業	現状維持	⑤				
	③ 高齢者外出促進事業	現状維持	⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			6,492	9,070
決算						6,032	8,382	
人件費(B)	千円	決算			3,397	2,452		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			9,429	10,834		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 文化施設優待事業利用者数	人	目標	935	943	980	1,020	1,060
			実績	1,045	961	1,255	1,034	
	B 福祉浴優待利用人数	人	目標	4,600	5,048	5,250	5,450	5,650
			実績	4,993	4,931	4,640	4,658	
C リニモ利用券交付枚数	枚	目標	3,519	3,439	3,580	3,750	3,850	
		実績	3,519	3,576	4,151	5,015		
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。								
B 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。								
C 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 名古屋市の敬老パス、尾張旭市の高齢者タクシー基本料金助成等、高齢者の外出補助を行う制度が中心である。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標値を概ね達成しており、高齢者等外出機会が増えていると考えられる。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 制度を知らないために利用できていない方がまだあり、広報等で継続的な周知が必要。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 外出のための経済的な支援だけでなく、外出するための機会や場所の創出を行う。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 一方的な優待事業ではなく、自ら外出したくなる仕組みづくり、市民協働による輸送手段の確保等を検討したい。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者優待事業									
番号	①	事務事業名	高齢者文化施設優待事業	款	3	項	1	目	2	大	5	中	1
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成8年度		終了（予定）年度		-					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 年度内に名都美術館3回、トヨタ博物館1回、無料で入館することができる。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者の文化活動への関心を高め、外出の機会を増加させる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			551	562	610
		決算			707	572	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	935	943	980	1,020	1,060
		実績	1,045	961	1,255	1,034	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

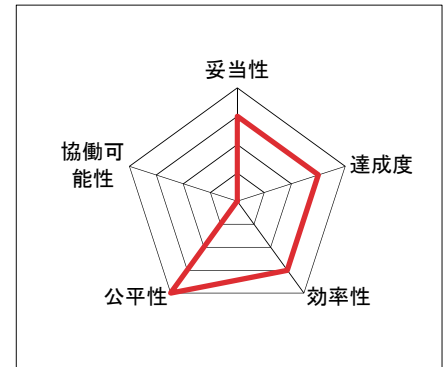
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは緊迫の課題である。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者の外出促進を図ると共に文化活動への関心を高めるため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
継続実施することで、高齢者の外出のきっかけづくりを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
目標どおりの方の利用があり、一定の外出のきっかけづくりとなっている。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
利用者が一部の方に偏る傾向があり、多くの方が利用できる時要への検討が必要。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
申請方法、優待内容、対象文化施設の増加等、利用の拡充を検討する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者優待事業										
番号	②	事務事業名	あつたかあど事業		款	3	項	1	目	2	大	5	中	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成14年度		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 ござらっせの優待料金による利用、福祉浴室・歩行浴室の利用及びN-バスの無料乗車ができる。 ※年間10回は、福祉の家の福祉浴室、歩行浴室が無料で利用できる。
	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出の機会を増やし、社会参加することで地域との交流を盛んにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			2,518	2,518	3,195
		決算			3,021	3,391	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
福祉浴優待利用人数	人	目標	4,600	5,048	5,250	5,450	5,650
		実績	4,993	4,931	4,640	4,658	
カード発行枚数	枚	目標	360	754	785	815	845
		実績	641	775	2,250	1,485	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

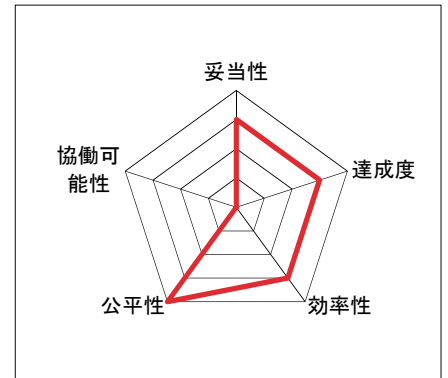
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは緊迫の課題である。
--

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 外出を促進し、つながりの強化、社会への参加機会の拡充をするため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか) 継続実施することで、高齢者の外出のきっかけづくりを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) あつたかあどの発行枚数は、目標を大きく上回っており、利用が定着してきている。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) あつたかあどの利用方法の拡大等の検討が必要である。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 外出を促進し、つながりの強化、社会への参加機会の拡充をするため、今後も事業を継続する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者優待事業									
番号	③	事務事業名	高齢者外出促進事業	款	3	項	1	目	2	大	5	中	3
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成20年度		終了（予定）年度		—					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 年度に1回マナカチャージ券（1,000円分）を交付 運転免許証自主返納者に1回に限りマナカチャージ券（5,000円分）を交付
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者の外出の機会を増やし、社会参加することで地域との交流を盛んにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			3,423	5,990	6,170
		決算			2,304	4,419	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
交付枚数	枚	目標	3,519	3,439	3,580	3,750	3,850
		実績	3,519	3,576	4,151	5,015	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

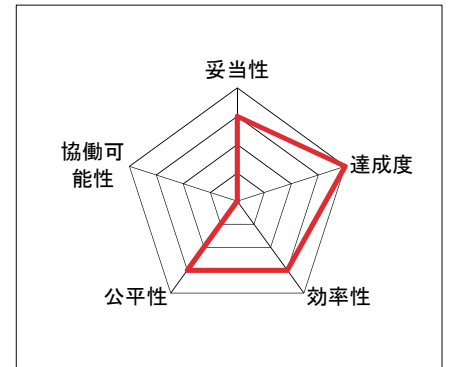
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
公共交通機関の乗車券のIC化が進み、リコモにマナカが導入された。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者の外出の機会を増やすことで、社会活動への参加を促進するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
<ul style="list-style-type: none"> ・リコモカードの交付からマナカチャージ券に変更した。 ・高齢者の運転免許証の自主返納を促すため、自主返納者へのマナカチャージ券（5,000円分）の交付を開始した。 申請期間については、返納日から1年以内に変更した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
マナカチャージ券に変更したことにより、名鉄バス、名古屋市営地下鉄など、利用できる公共交通機関が増えた。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
運転免許証の自主返納日の属する年度で申請が必要としたため、返納時期による申請期間の猶予に不公平感が生じた。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
高齢者の外出の機会を増やすことで、社会活動への参加を促進するため、今後も事業を継続する。